

Title	ジンゲル博士講演会について
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1990
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.59, No.4 (1990. 12) ,p.163(515)- 164(516)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19901200-0163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

ジンゲル博士講演会について

イスラエル国テル・アヴィヴ大学考古学研究所専任講師イタマル・ジンゲル博士の来日の機会を利用し、小泉信三基金による講演会が開催された。日時は平成二年九月二二日（土）午後一時三〇分より三時三〇分まで、場所は三田の大学院校舎二階三二五B教室であった。演題は「ヒツタイト帝国の滅亡と海の民のカナン定着」（英語使用、スライド映写付き）。出席者は塾生を含め約三〇人であったが、京都産業大学教授大城光正氏、立教大学教授月本昭男氏のような著名な専門家も姿を見せた他、有名なヒッタイト学者ハンス・ギューターボックの子息トマス・ギューターボック教授も参加した。

講師ジンゲル氏はルーマニア生れのイスラエル人であり、エルサレムのヘブライ大学やテル・アヴィヴ大学で学んだ後西ドイツに留学し、ヒッタイト学者ハインリヒ・オッテンの下で研鑽をつみ、マールブルク大学から学位を授与された。

ジンゲル博士はまず、ヒッタイト帝国終末期にかかる最近の新しい発見を紹介した。ペーター・ネーヴェによる近年のボアズキヨイ発掘は、上の町で、トウドハリヤ四世時代に建立された神殿群を発見したが、そこからの最も注目すべき出土物の一つは最近オッテン教授によって刊行された青銅製文字板であ

る。ヒエログリフで書かれたその文字板の内容は、トウドハリヤ四世とタルファンタッシャ王クルンタの間の協定書である。これを研究すると、ヒッタイト帝国末期の王家をめぐる抗争が明らかになってくると思われ、その結果海の民の来襲のような外因にのみ求められていた帝国滅亡の原因に、新たに内的な混乱がつけ加えられなくてはならなくなるであろう。

ジンゲル氏は海の民の故郷は、ギリシアやバルカン半島というよりはアナトリア西部であり、そこにはルウイ語を話す人々が住んでいた、とする。彼等はヒッタイト帝国にに対し、陸上でも海上でも大きな脅威を与えていた。最近ボアズキヨイの「南の城砦」で発見されたヒエログリフ付きの切石群に対するディヴィド・ホーキンズの予備的研究成果によると、そこにはシュピルリウマニ世時代のアナトリア西部やタルファンタッシャ王国での軍事的活動が記されている。

この海の民のカナン海岸入植の様相についても、近年の考古学的成果には目を見はらせるものがある。ジンゲル氏によれば、ペリシテ人などの海の民は、ラムセス三世の第八年（前一七五年）における決戦の後、エジプト人によつてカナン各地の砦に入植させられたものである。ドール、アッコ、テル・ゼロール、更にはアシュドド、アシュケロン、エクロンなどのパレスティナ南部の諸市での発見は、海の民に属するシキラ族とシェルダニ族の都市建設の実状を解明しつつある。それは従来考えられていた以上に大規模なものであった。又、ペリシテ人の冶金術にかかる重要な発見がエクロンやテル・カシレにお

いてなされてきた。（例えば、エクロンでは保存状態の良好な幾つかの短剣が発見された。その骨で出来た把手は、青銅製の釘で鉄製の刃身に固定されている。）

講演終了後、活発な質疑応答があつた他、研究室談話室で博士と参加者有志とにより茶話会が催された。

『史学』第50巻2・3号の裏表紙、論文著者名のローマ字表記に誤りがありましたので、次のように訂正いたします。

(誤) Masaichi ASAMI → (正) Masakazu ASAMI

(誤) Manabu HURUKAWA → (正) Satoru HURUKAWA